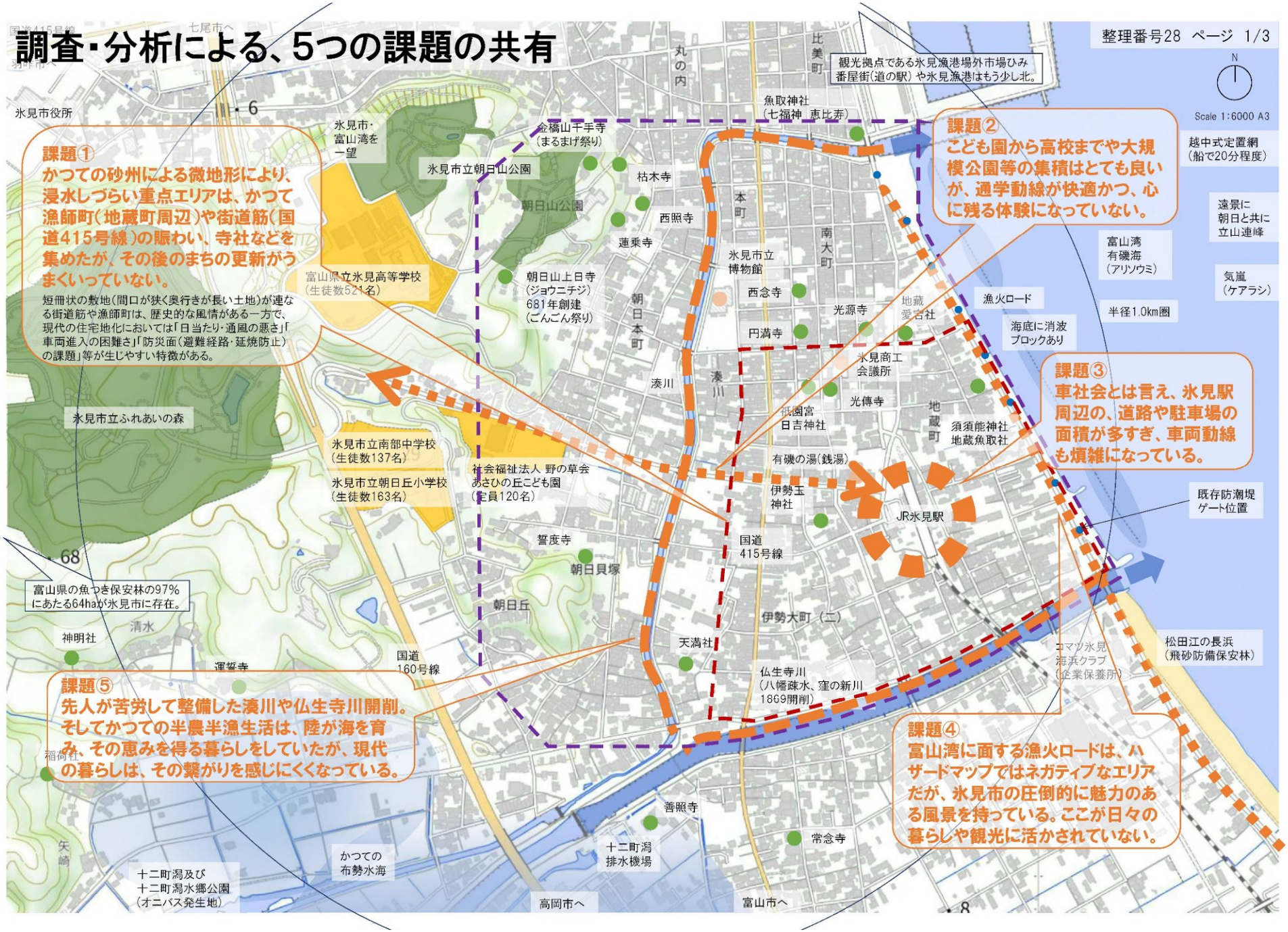
整理番号㉘-1

調査・分析による、5つの課題の共有



整理番号㉘-2

氷見くらしま

氷見ならではの、健康と環境と安全を意識した暮らしができる島(しま)へ。

前頁の課題を踏まえ、本提案では仏生寺川と湊川に囲まれた市街地を、明快な領域性を持つひとつの島(しま)として捉え、以下A～Eを提案具体化の方針としつつ、主に4つのエリアを中心とした改修とする。

A.徒歩＆公共交通(鉄道・バス)＆スモールモビリティを組み合わせた郊外型ウォーカブルタウンの形成。
B.利便性や安全性から選ばれる居住地移転へ向けた、街道筋＆漁師町のまちづくり再編。
C.子育て＆教育＆交流＆観光拠点等、島のコアとなる"えきひろば"としての氷見駅前の改修。
D.地域固有の風景や体験を、日常と観光に織り込む漁火ロードのプロムナード化。
E.富山湾の漁業につながる、地域の水循環を感じることのできる湊川の菜園化。



氷見そだち通り

みんなを健やかにそだてる、ウォーカブルタウンの目抜き通り



子育て＆教育機関が集積するこの道路は、一方通行化して歩道拡幅を行い、春の芽吹きや花、夏の緑陰、秋の紅葉、冬のひだまりが感じられる、植栽豊かな、通学＆移動しやすいウォーカブルな通りとする。

更に氷見駅を越えて海まで繋げることで、日常から富山湾の絶景や潮の香りを感じつつ過ごせるまちへ改修する。

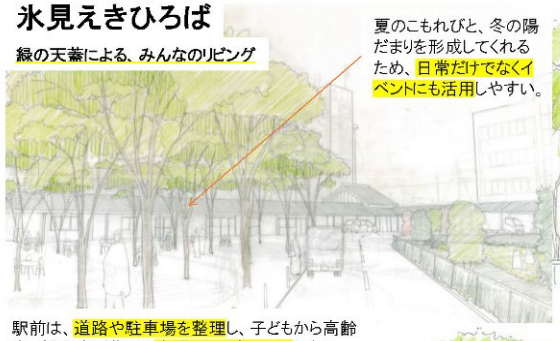
街路樹は、地域の植生を踏まえた樹種選定とする。また、花・実・葉の彩りや香りの季節変化が感じられやすい落葉高木を主体とする。

常緑針葉樹　アカマツ
常緑広葉樹　タブノキ、ヤブニッケイ
落葉広葉樹　アカシデ、イヌシデ、ヤマザクラ、ケヤキ、オニグルミ、イロハカエデ
常緑低木　チャボガヤ、ヒメアオキ
落葉低木　ミツバツツジ、ムラサキシキブ

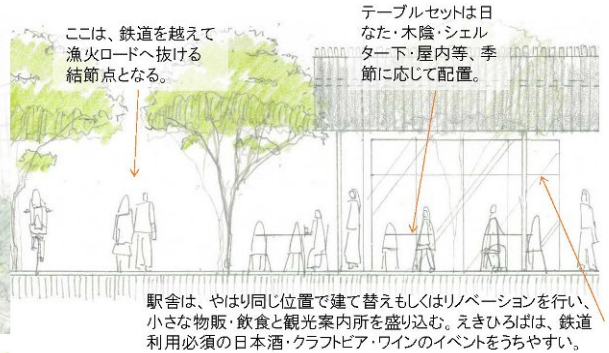


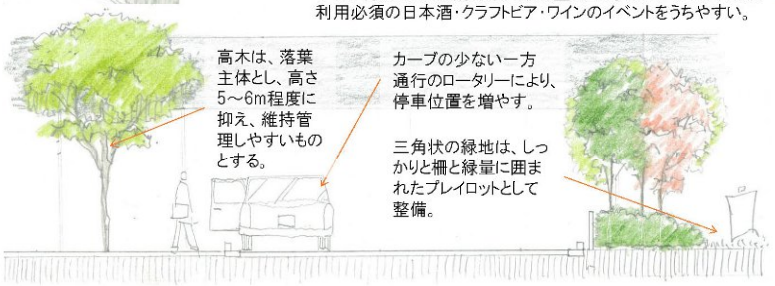
氷見えきひろば

緑の天蓋による、みんなのリビング



駅前は、道路や駐車場を整理し、子どもから高齢者、観光客が集える広場にして島のコアとする。
広場には芝生地が多いが、あまり機能しないため緑陰や季節感を優先した落葉高木の林とする。
テーブルセットでは、バス＆電車待ちの観光客や、宿題＆談笑する学生達等が集う。
休日は、みなとがわ菜園で育てた野菜による、スモールモビリティ朝市を開催し地産地消に貢献。
もちろん災害時の拠点としても機能。
バスとタクシーだまりは、1号駅北緑地と換地し、アプリやセンサー活用で駅前に来れるようにする。
鉄道のICカード改札は、路線バスのように車両出入口に設置し、広場全体が駅となるようなしつらえとする。





氷見くらしま

氷見ならではの、健康と環境と安全を意識した暮らしができる島(しま)へ。



事例紹介：極細敷地もまちに利く。（ミナモ十三）

大阪市淀川区に2026年8月開業のミナモ十三と言う飲食施設。淀川右岸の堤防上の極細敷地に設けられており、キタの摩天楼と淀川の自然を楽しむ、その一点による立地となっている。

氷見浜さじき

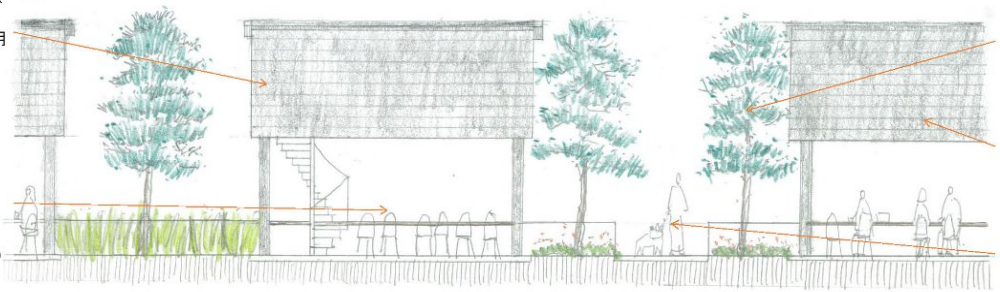
日常と観光に利く、この地ならではの空間体験



漁火ロードの陸側余剰地等を活用し、車路を若干陸側へ寄せつつ、海側には眺望抜群でクロマツが繁る遊歩道と、とても細長い飲食・商業・宿泊・交流施設を整備。

ハザードマップを踏まえ、1層目は軒下交流テラス、施設エントランス等設け、2層目は飲食・商業・宿泊施設として活用。
氷見ブリ等の海の幸や、朝日＆気嵐を感じる宿泊、遠方の立山連峰の風景等、唯一無二の味覚＆空間体験ができる。
駅からすぐであるため、昼間から酒を飲んでも電車で帰宅可能な観光企画『酔いどれ氷見もん列車(仮称)』を造成可能。





みなとがわ菜園

陸が海を育てる。
現代版エコライフの実践地

湊川沿いは、島を一周するジョギングやウォーキングコース化。



庭や公園が少ないなか、河川敷が交流スペースとなる。

湊川沿いの河川敷は、交流の広がる市民菜園として、そしてエコロジカルな暮らしの場として、また庭や公園の少ない島内のオープンスペースとして機能させる。

そしてこの河川敷の菜園の栄養分は、湊川を通って海へ流れ出し、越中式定置網漁の漁場へと届き、豊かな食を支えるという、一連のつながりを意識したものとする。

また住まいの移転において、以前から周辺地域で農業を営まれていた方も、島への移転後も土と触れ合える暮らしが可能となる。

なおこの提案は、重点エリアからだけでなく、対象エリア側からの利活用も可能。

